



ものづくりマイスター派遣先

長崎県立大村城南高等学校

〒856-0835 長崎県大村市久原 1-416

概要

(H28.7 取材当時)

学校長 吉田 寿

創立・沿革 昭和16年 大村市竹松実業学校として創立
 昭和23年 長崎県大村農業高等学校となる／長崎県立大村高等学校と統合し、長崎県立大村高等学校農業部となる
 昭和26年 長崎県立大村農業高等学校として独立
 昭和30年 長崎県立大村園芸高等学校と校名変更
 昭和31年 村松分校、亀岳分校統合して長崎県立西彼農業高等学校として独立
 昭和40年 園芸科1学級転科し、造園科を設置
 平成10年 長崎県立大村城南高等学校と校名変更／総合学科・園芸科学科・環境デザイン科に学科改編
 平成15年 園芸科学科・環境デザイン科を総合学科に学科改編

費用面での支援が受けられるありがたい制度

4年前に私が赴任したばかりのとき、造園に携わったことがなかったので四苦八苦しながら指導の方法を模索していました。そんなとき地域技能振興コーナーの方から、「ものづくりマイスター制度」を紹介されました。また、この制度では、材料費などの費用面で支援が付くということで、非常にありがたいものだと感じました。そこで、すぐにものづくりマイスターの派遣をお願いした次第です。



富永マイスターによる指導の様子



学科 総合学科(人文自然系列、情報ビジネス系列、食料科学系列、環境デザイン系列、生活系列、福祉系列)

卒業生総数 12,533名

教職員数 67名

カリキュラム

期 間	平成27年 6月
実施場所	大村城南高等学校 造園施工実習室
受講者数	17名

	指導日	指導内容
1	6/30	造園工事作業の工程確立及び作業の指導

自然を活かして、施主の心に伝わるような庭造りを志すことが大切

● ● ● 本音のところで語り合って接しよう

生徒さんもさまざまで、本当に造園を希望して資格をとろうとか、技能検定を受けよう并希望する生徒さんがいるかと思うと、そうでない生徒さんたちもいて、若いだけに接し方が難しいところがあります。しかし、純粋な気持ちを持っている世代でもありますので、私自身も知ったかぶりをせず、本音のところで語り合って接しようとしています。技能を身につけることは、その生徒の将来に向けて大事なことで、そういう思いをもって私自身取り組んでいます。

● ● ● 体で慣れてもらうしかないところがある

生徒たちは、素材にしても、道具にしても、皆、普段使ったことのないものばかりなので、初めて手にするものが多いと思います。それらをいかに使いこなしていくかが課題となります。初めのうちは皆さんぎこちないのですが、体で慣れてもらうしかないところがあります。例えばしゅろ縄の結び方にもいろいろありますが、男結びを知らないと絶対に結束はできません。この男結びのやり方は右利き用になっているため、左利きの人には難しい手法となってしまいます。左利きの生徒がいると、一呼吸おかないと手本を見せられなかったりします。

分からせるためには、見て理解しやすいような方法で指導しなければならないと思います。教えながらどうやって理解させるか、自分自身で考えていかなければなりません。教えることによって自分自身が勉強できると思います。

● ● ● 石を見極めるには経験が必要

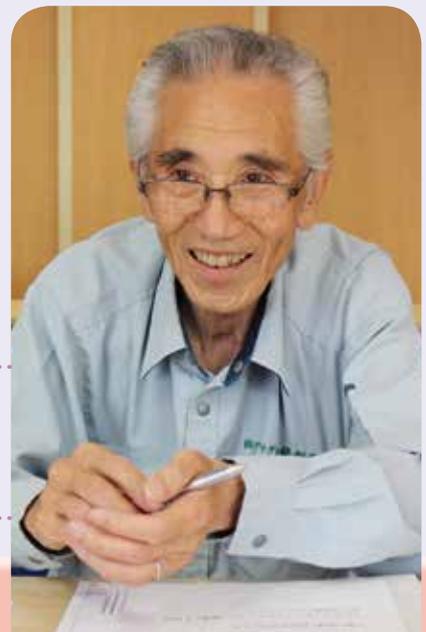
自然石の場合には特に難しいです。1石、2石ではなく、5石、6石と並べていく場合には、眺めるときには平面になりますので、必ず天端をそろえる必要があります。石そのものには必ず天(頭)があり、面があり、石そのものの型があります。それらを見極める必要がありますが、これはもう経験しかないです。これらをどう組み合わせしていくかが大切ですが、それは感性の問題になってしまいます。

● ● ● 造園は造るものではあるが、自然を無視してはできない

鑑賞するだけの庭というものもありますが、造園は基本的には生活の一部です。造園は造るものではありませんが、自然を無視してはできないものです。石や木や花だけでなく、施主の気持ちを取り込んでアドバイスをしながら、しかも自然に逆らわないような施工の仕方です。造り上げていくことが大切です。われわれ職人の自己満足ではダメなのだということです。自然を活かして、施主の心に伝わるような庭造りを志していかなければ、次の仕事につながりません。

ものづくりマイスター
富永 和博 (とみなが かずひろ)

昭和17年3月25日生まれ
昭和49年度 1級技能士 造園(造園工事作業)取得
平成13年度 卓越した技能者の表彰「現代の名工(造園)」受章
平成25年度 厚生労働省ものづくりマイスター(造園)認定



仕様書どおりにできたときの充実感や見た目の美しさというのは格別



金石 浩樹 教諭

第一線で活躍されているプロの方から直接技術や知識を指導してもらえる

「ものづくりマイスター制度」活用が一番のメリットは、生徒が第一線で活躍されているプロの方から直接技術や知識を指導してもらえるところだと思います。

私たちのような学校の教員ですと、本職ではありませんので、どうしても教科書の内容を中心にした指導で、実践にそぐわないような指導となりがちなところがあります。その点、ものづくりマイスターの指導であれば、プロの指導であるだけに、生徒たちもしっかりと受け止めようとし、少しでも技能を学ぼうという姿勢がはっきりとうかがえるようになります。この点が非常に大きなメリットだと思います。また、職業観を学ぶという点でも、この「ものづくりマイスター制度」はよい機会を提供しているのではないかと思います。

マイスターは造園の魅力をはじめ、一つひとつ理にかなった説明をしてくれる

富永マイスターは非常に温和で優しい語り口の方ですので、なごやかな雰囲気の中でしっかりとした技能や知識の指導を受けています。造園の魅力をはじめ、仕事で手を抜けないこととか、材料を大切にすることとか、一つひとつ理にかなった説明をしてくれますので、そばで聞いていて私自身になるほどと思う

ことが多いです。

材料一つひとつは自然素材なので同じものはありませんが、それでもそれらを活かしていかうまく使うかなど、プロとしての技を見せてくれます。この点、生徒たちも驚きの目で見ています。

造園は未知のもの、自ら生徒と一緒に技能検定を受検

そもそも造園というものは、私にとってまったく未知のものでしたので、生徒に指導する以上、自分自身でも知っておかなければならないと思い、私も生徒と一緒に技能検定を受けて、造園技能士となりました。もちろん富永マイスターの指導を受けたうえです。

上の級で学習したことは、生徒に教えるときに活かすことができますので、私自身が技能を高めることは生徒への還元につながります。その意味では、私自身ももっと研鑽を積みなければいけないと考えています。自分が体験して分からなかったことというのは生徒にも教えやすいです。基本は一つなのですが、ちょっとした時間短縮のやり方というものがありますので、いろいろな方々から学ばせてもらうことは非常に参考になります。仕様書どおりにできたときの充実感や見た目の美しさというのは格別です。



実習室



富永マイスターによる指導の様子

受講者の声

自分もお客様もお互いに納得できる よい作品が作れるようにしたい

● ● ● 植物の名前を覚えるのはかっこいい

造園を志したきっかけは、自宅の庭で、祖母が好きな植物や見栄えのよい植物を買ってきては植えている様子を見ていて、興味がわいてきたことです。高校入学に当たっても、室内にいるよりも屋外で動いたほうが楽しいと思い、造園を選びました。この高校に入学してからは、図書館で植物の名前などを調べて覚えるようにしてきました。植物の名前を覚えるのは、それ自体かっこいいように思いました。

● ● ● ものづくりマイスターは 幅広い知識と技術を持っている

竹垣とか庭を造るのは、何回も何回も繰り返していけば造れるものだと思いますが、造園には石材とか植栽などいろいろな形があるものについて「抜き」というのがあります。人の見方によって変わるものですが、先生でもよく分からないところを、富永マイスターはすぐに「抜き」を見つけて処理しているのがすごいなあと思いました。

富永マイスターは、造園そのものの知識はもちろんですが、植物、樹木の知識のほかに、フラワー装飾や園芸装飾などの非常に幅広い知識を持っていらっしゃると思うので、自分でもできるだけ幅広い知識と技能を持ちたいと考えています。



松川 佳祐さん

● ● ● ものづくりマイスターとお互いに話が できるようになれば、興味もわいてくるし 前向きに取り組めるようになる

富永マイスターから「鬼手仏心」という言葉を教わりました。お客様にただ従うだけとか、自分のことだけを主張するだけとかではなく、お互いに納得してよい作品が作れるようにしなければならないということです。

ものづくりマイスターから教わる時には、ただ教わるだけではなく、分からないことは恥ずかしながら何でも聞くようにしました。「造園」であれば造園についてもものづくりマイスターとお互いに話ができるようになれば、興味もわいてくるし前向きに取り組めるようになると思います。

これから造園を目指す人は、分からないからといって投げ出さず、あきらめずにねばり強く取り組んでいってほしいと思います。将来は独立して造園業をやっていきたくて考えています。



富永マイスターに指導を受ける松川さん

地域技能振興コーナー担当者より

受講生の中の個人差に対し、富永マイスターは、その差を埋めるべく熟練の細かい心配りをもって指導していました。通常の授業とはまったく別の切り口で生徒一人ひとりの心を瞬時にとらえて指導するとともに、生徒の進路に対し夢と希望を与えています。まさしく「ものづくりマイスター」の真骨頂を垣間見たような

気がします。

今後も多くの生徒の皆さんのために、匠の熟練の技と感性を会得できる実技指導への窓口をさらに広げるとともに、この制度がより充実したものとなるよう活動を継続してまいります。